

各地区の人口・高齢化率

(平成23年7月末現在)

地区名	地区人口	65歳以上人口	高齢化率(%)
内牧	208	67	32.2
外牧	168	59	35.1
錦野	251	88	35.1
鳥子川	66	27	40.9
岩坂	594	187	31.5
瀬田	117	45	38.5
大林	646	193	29.9
吹田	229	83	36.2
森	357	112	31.4
上陣内	247	60	24.3
中陣内	544	124	22.8
下陣内	601	131	21.8
鍛冶町	622	74	11.9
鍛冶町	275	95	34.5
下町	261	86	33.0
中島	156	53	34.0
上猿渡	81	25	30.9
下猿渡	100	32	32.0
御所原	126	44	34.9
馬場	154	35	22.7
宮本	183	40	21.9
多々良	102	28	27.5
仮宿	108	33	30.6
古城	31	12	38.7
米山	26	13	50.0
真木	229	94	41.0
御願所	114	43	37.7
上中	230	80	34.8
下中	290	70	24.1
片俣	165	67	40.6
小林	188	70	37.2
今村	146	50	34.2
杉下	225	70	31.1
杉上	254	97	38.2
上の原	197	34	17.3
源場	374	80	21.4
護東	34	12	35.3

地区名	地区人口	65歳以上人口	高齢化率(%)
つつじ台	869	109	12.5
桜丘団地	504	95	18.8
大津東	1,572	312	19.8
立石	350	98	28.0
後迫	797	144	18.1
上鶴	928	202	21.8
上鶴南	521	135	25.9
上大津	658	131	19.9
楽善	647	120	18.5
日吉ヶ丘	537	53	9.9
西嶽	189	59	31.2
水源町西窪	200	53	26.5
松古閑塘町	260	88	33.8
中央	473	99	20.9
中学通り	632	83	13.1
駅通	328	93	28.4
室東	901	138	15.3
室北	1,280	184	14.4
室西	1,177	190	16.1
北出口	372	36	9.7
あけぼの	1,175	67	5.7
灰塚	277	79	28.5
新	1,632	153	9.4
引水	1,269	191	15.1
高尾野	427	98	23.0
新小屋	138	37	26.8
引水東	1,597	87	5.4
美咲野一丁目	843	31	3.7
美咲野二丁目	636	38	6.0
美咲野三丁目	934	26	2.8
美咲野四丁目	94	3	3.2
若草児童学園	38	0	0
三気の里	74	3	4.1
つくしの里	53	10	18.9
ループ高尾野寮	143	0	0
つつじ山荘	108	108	100
老人ホーム	28	28	100

もはや対岸の火事ではない

大津町の一人暮らしの高齢者は663人。世帯割合では5.5%を占める。高齢者夫婦などの世帯は821世帯あり、両世帯を合わせた1,484世帯になり、実に全世帯の12%を占める。さらに介護認定者は1,140人。障害者は1,563人。一人親世帯などは296

世帯ある。これを全て合計すると、数字的には町の世帯数の3割を超えてしまうことになる。

平成10年には、県内で169人だった孤独死は、平成19年には486人に増加した。自助―自分たちのことは自分で守ること―が非常に難しくなっている。今後は、さらに共助が求められる時代になっていくだろう。

共助は情報交換が鍵を握る

もし災害が起きたとき、自分ではどうすることもできないことや消防士が助けに来ることを待っていても間に合わないことがある。「自助」や「公助」で対応できない場合は「共助」が必要不可欠だ。これからは、共に助け合うという考え方が、さらに必要になってくる。

もし、隣近所の付き合いが少ない地域だと、隣に誰が住んでいるのか、何人住んでいるのかが分からない。誰を助けていいのかわからないのだ。

例を挙げよう。阪神淡路大震災時、ある地域に若者が住む寮があった。その地域は住民同士あいさつを交わし合う、つながりが深い地域だったが、その若者たちはあいさつをせず、コミュニケーションを図ることはなかった。そんな中、大震災が起きた。地域の人たちは互いに協力し、情報交換を行い、必死に助け合った。しかし、地域の人は若者たちを助けることはできなかった。コミュニケーションを省いてしまった若者たちの情報を地域の人は持っていなかった。若者たちは「共助」に頼ることができなかったのだ。それほど、共助とコミュニケーションは密接な関係にある。共に助け合うには、情報交換やつながりが必要なのだ。

地区の特徴を知ることが大事

上の表は、大津町の各行政区の総人口と高齢者数、高齢化率をまとめたものだ。自分の地域の状況を確認してほしい。高齢化率だけでもこのような興味深い数字が出てくる。まずは、地区の状況、情報を知ることが大事であることが分かるだろう。

限界集落という言葉を知っているだろうか。65歳以上の高齢者が集落人口の50%以上を占め、集落機能を維持することができなくなる集落に使われる言葉だ。

阪神淡路大震災から地域防災の取り組みが叫ばれ、自主防災組織の結成が進んだ。さらに東日本大震災や福島原子力発電所の事故が発生し、今後、安全で安心な生活を維持するためにはどうすれば良いのかという課題を生んだ。

現在、全国的に人口減少が進んでいる。少子高齢化は、介護保険や国民健康保険などのサービスにも影響し始めている。核家族化が進み、一人暮らしの高齢者が増えていくことで孤独死が多くなっていることも忘れてはならない。

大津町は元気だ―。人口減少や少子高齢化時代が叫ばれる現在でもこの町は、人口は増加し、高齢化率も18.6%とまだまだ低い値を示している。

だからこそ元気なうちに福祉や防災について、地域のつながりについて、一緒に考えてみよう。

特集
プラス
Special Edition "Plus"